



前田建設

MAEDA



MAEDA CSR REPORT

CSR報告書2015

データブック

MAEDA CSR CSR報告書2015 REPORT

データブック

目次

- 2 MAEDAのコミュニケーションツール
- 3 MAEDAのCSR体系
- 4 MAEDAのCSRとISO26000の関係性
- 4 MAEDAの中長期環境目標
- 5 MAEDAの2014年度におけるCSRの取り組みと主なKPI
- 7 トピックス「地球への配当」による地球環境への貢献活動
- 9 MAEDAの「CSRの4本柱」に関する活動データ報告
 - 9 ●「法令等遵守(コンプライアンス)」
重点項目：企業統治、リスク管理、職場環境、法令遵守
 - 11 ●「優れた建造物・建設サービスの提供」
重点項目：安全な施工、品質の確保、技術開発、CSR調達
 - 13 ●「環境保全への取り組み」
重点項目：環境経営推進、社会的課題解決への寄与
グループ会社の環境データ一覧
 - 20 ●「企業市民としての社会・地域貢献活動」
重点項目：社会・地域とのコミュニケーション、社員の環境意識向上
- 22 外部表彰・外部評価

MAEDAのコミュニケーションツール

MAEDAのコミュニケーションツールの構成

MAEDA CSR REPORT 2015



MAEDAおよびグループ会社に取り組んでいるCSR活動を中心に紹介しています。2部構成になっており、パート1では事業活動などを通して当社の考えや戦略を述べ、パート2では当社の「CSRの4本柱」を軸に2014年度の取り組み実績を報告しています。

MAEDA CSR REPORT 2015 データブック



MAEDA CSR REPORT 2015で報告したCSR活動の補足およびKPIについて、経年変化と目標値を示し、その状況をお伝えしています。

MAEDA ANNUAL REPORT



主に海外投資家を対象とし、財務情報、国内外工事情報、CSR活動などの実績とともに、当社の今後の事業戦略についても報告しています。

MAEDA Webサイト

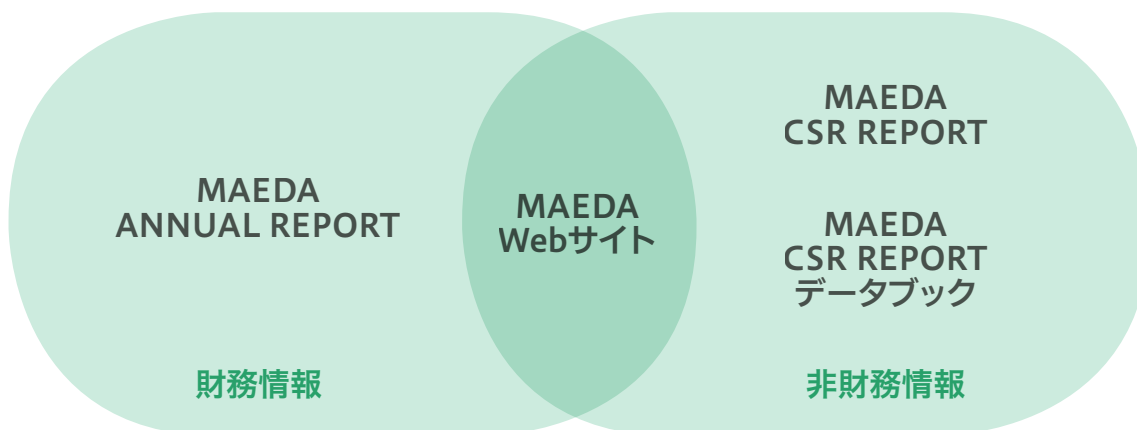


MAEDAの財務情報については「IR情報」サイトにおいて情報公開し、非財務情報については「CSR」サイトにおいて報告しています。

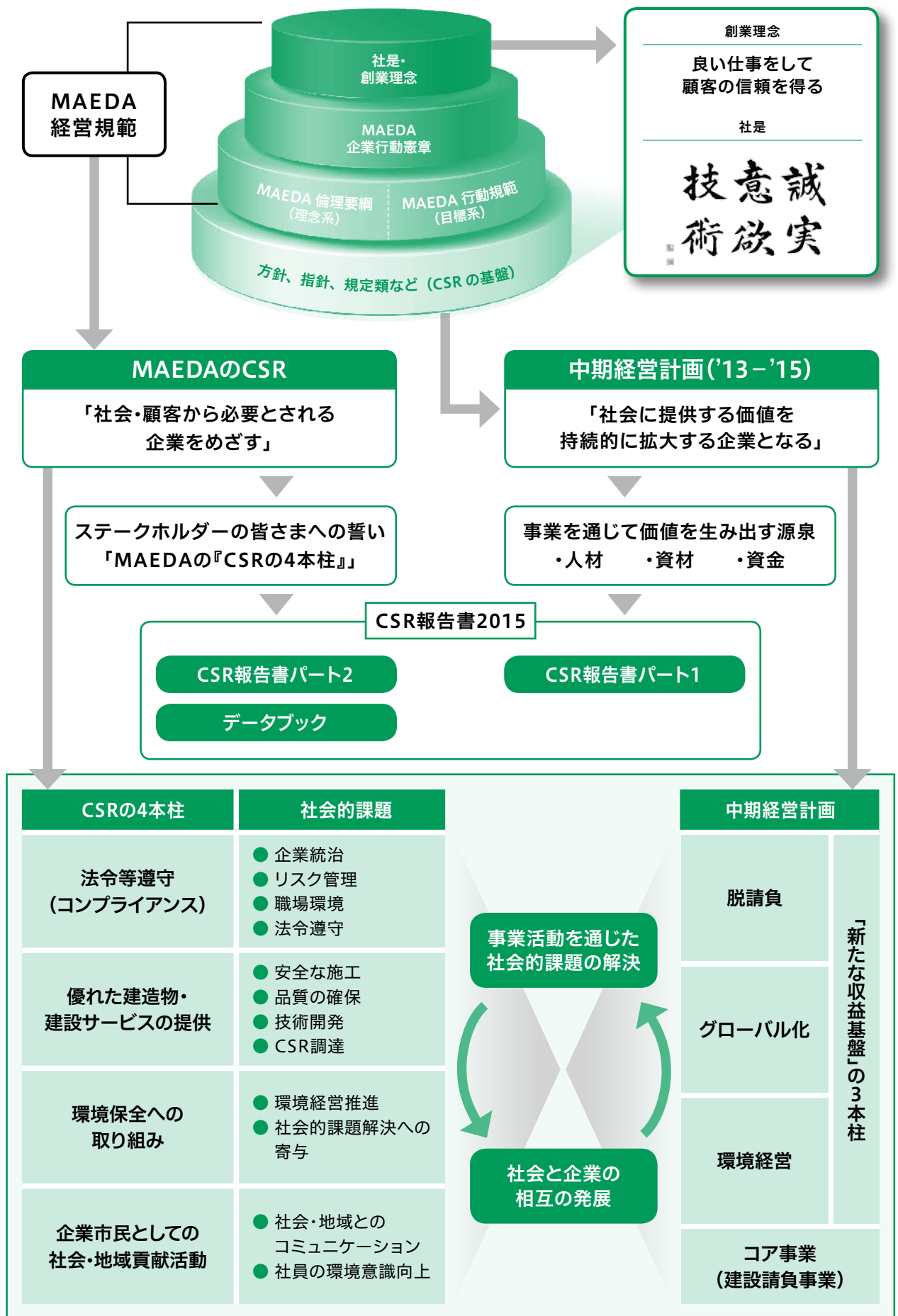
IR情報 : <http://www.maeda.co.jp/ir/index.html>

CSR : <http://www.maeda.co.jp/csr/index.html>

MAEDA コミュニケーションツールの主な位置づけと関係性



MAEDAのCSR体系



MAEDAのCSRとISO26000の関係性

CSR報告書2015は、MAEDAの「CSRの4本柱」を主軸として、各取り組みについて報告しています。

当社のCSRの取り組みと、ISO26000の関係性を以下の一覧表に記します。

MAEDAの「CSRの4本柱」	重点項目	CSR報告書2015 報告項目	ISO26000 7つの中核主題						
			組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 事業慣行	消費者 課題	コミュニティー 参画および開発
法令等遵守 (コンプライアンス)	企業統治 リスク管理 職場環境 法令遵守	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業統治 ● リスク管理 ● 職場環境 ● 法令遵守 	●	●	●		●		
優れた建造物・ 建設サービスの提供	安全な施工 品質の確保 技術開発 CSR調達	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全・品質に関する取り組み ● 技術開発に関する取り組み ● 調達に関する取り組み 				●	●	●	
環境保全への 取り組み	環境経営推進 社会的課題解決 への寄与	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境経営推進に関する取り組み ● 地球温暖化防止に関する取り組み ● 循環型社会構築に関する取り組み ● 生物多様性保全に関する取り組み 				●		●	
企業市民としての 社会・地域貢献活動	社会・地域との コミュニケーション 社員の環境意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会・地域とのコミュニケーション ● MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用 ● MAEDAグループのCSR・環境活動 				●			●

MAEDAの中長期環境目標

MAEDAはこれまで、施工段階におけるCO₂排出量の削減について、2020年と2050年の中長期目標に加え、近年の事業状況、エネルギー事情、社会状況を考慮し、2030年の長期目標を掲げ、達成に向け取り組んでいます。

地球温暖化防止に向けた中長期目標

施工段階において
1990年度比で

2020年までに

原単位:**35%削減**
(総排出量:60%削減)

2030年までに

原単位:**50%削減**
(総排出量:70%削減)

2050年までに

原単位:**75%削減**
(総排出量:85%削減)

循環型社会の構築に向けた長期目標

施工段階において2030年までに **「リサイクル率(汚泥等※除く)100%」**

※建設汚泥、石綿含有廃棄物、特別管理型廃棄物

MAEDAの2014年度におけるCSRの取り組みと主なKPI

MAEDAの「CSRの4本柱」	「CSRの4本柱」に属している重点項目	CSR報告書2015 報告項目	
		重点項目に対する活動項目	CSR報告書2015 対応ページ
法令等遵守 (コンプライアンス)	企業統治 リスク管理 職場環境 法令遵守	企業統治	P.31
		リスク管理	P.32
		法令遵守	P.34
		職場環境	P.33～34
優れた建造物・ 建設サービスの提供	安全な施工 品質の確保 技術開発 CSR調達	安全・品質に関する取り組み	P.35～36
		技術開発に関する取り組み	P.37～38
		調達に関する取り組み	P.39～40
環境保全への 取り組み	環境経営推進 社会的課題解決への寄与	環境経営推進に関する取り組み	P.41～42
		地球温暖化防止に関する取り組み	P.43～44
		循環型社会構築に関する取り組み	P.45～46
		生物多様性保全に関する取り組み	P.47～48
企業市民としての 社会・地域貢献活動	社会・地域との コミュニケーション 社員の環境意識向上	社会・地域とのコミュニケーション	P.49～51
		MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用	P.51～52

当社のCSRの指標である「CSRの4本柱」を軸に、それぞれの軸で捉えている重点項目、CSR報告書2015の報告項目、各項目で取り組んだ内容とそのKPIについて、それぞれの関係性を以下の一覧表に示します。

報告項目における 主な取り組み	取り組みに関するKPI	KPIの達成度指標		ISO26000 7つの中核主題
			データブック 対応ページ	
理念等の浸透・定着	経営規範に関する教育の受講	新入社員受講者率	P.9	組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行
BCPへの取り組み	BCP訓練における安否確認メールへの返信	返信率		
情報安全	情報安全月間イベント参加者	参加者数		
CSR・コンプライアンス	CSR戦略会議の実施	実施回数	P.10	
	CSR・コンプライアンスアンケートへの回答	回答率		
	CSR・コンプライアンスレター発行	発行回数		
人権・人事・労務への対応	人権問題に関する教育・研修	参加率	P.11	
	障がい者雇用	雇用率		
	定年者再雇用	再雇用者率		
	育児休業	取得者数		
	有給休暇取得率	取得率		
	ボランティア休暇取得	取得者数		
現場における 安全への取り組み	安全成績	度数率	P.11	消費者課題 公正な事業慣行 環境
		強度率		
環境技術の売上への寄与、 普及・展開	選定環境技術が 工事受注・売上に貢献した件数	件数(土木)	P.11~12	
		件数(建築)		
グリーン調達の推進	施工段階におけるグリーン調達品 (指定11品目)の調達	調達率	P.13	
	オフィスにおける 文具類グリーン調達品の調達	調達率		
環境教育の充実	環境意識の向上を目的とした 集合教育の実施	実施回数	P.15	環境 消費者課題
	eco検定の取得	取得者率		
環境に関するしくみの充実	環境保全を目的とした資金拠出	「地球への配当」拠出額	P.16	
	グリーンR&Dの採用	採用件数		
地球温暖化防止に向けた 取り組み	建築物運用段階におけるCO ₂ 排出削減	推定削減率	P.17	
	施工段階におけるCO ₂ 排出	排出原単位		
	オフィスにおける 電力使用量によるCO ₂ 排出	排出量 排出原単位		
循環型社会構築に向けた 取り組み	施工段階における廃棄物の排出量	排出量	P.18	
	施工段階のリサイクル率(汚泥等除く)	リサイクル率		
	施工段階における混合廃棄物排出量	延床面積あたりの原単位(住宅) 延床面積あたりの原単位(非住宅)	P.19	
	電子マニフェストの利用	利用率		
	オフィスにおける一般廃棄物排出量	排出量 排出原単位(1日1人あたり)		
	オフィスにおける水使用量	使用原単位(1日1人あたり)		
生物多様性の取り組み	施工段階における取り組み	取り組み件数	P.21	
	生物多様性をテーマにした技術開発	開発件数		
地域とのコミュニケーション	社会・地域貢献活動の取り組み	取り組み件数	P.21	コミュニティ 参画および開発 環境
震災ボランティアの実施	震災ボランティアの実施	実施回数		
エコアクションの拡大	社内エコポイント制度「Me-pon」の普及	運用者率 利用ポイント数		

「地球への配当」による 地球環境への貢献活動

(CSR報告書2015 P. 42 参照)

当社は、地球資源のさまざまな恩恵を受けながら事業活動を行っています。このため、当社は「地球」も大切なステークホルダーと位置づけ、2010年度より連結純利益の2%を「地球への配当」として拠出し、地球環境へのさまざまな貢献活動を支援してきました。

この配当先は、地球環境の保全に直接的に貢献する活動への寄付を主体としてきました。しかしその中で、根源的にこの地球環境問題を解決に導くには、二つの大きな問題があることを痛感してきました。

一つ目は、貧困と平和の問題です。地球環境の保全には、平和で安定し、教育を受けられる文化的な社会の基盤が必要です。貧困や不十分な教育、紛争などにより生活の安定を図ることができない社会では、過度の伐採などの天然資源の無秩序な使用、化学物質の濫用、廃棄物による汚染など、地球環境の破壊が常態的に行われています。このような社会問題を解決しなければ、地球環境の保全は実質的に困難であるという事実です。

二つ目は経済の問題です。寄付で解決できる課題は限定的かつ短期的となる傾向があります。包括的かつ継続的な課題解決には、活動を経済の世界に乗せていく事が不可欠です。しかし、地球環境のための新事業や社会問題解決を目的とする事業は、そのリスクやリターンが低さから通常の投資対象となりにくいことから、環境・社会ベンチャーは十分な資金を得ることができず、先見的な取り組みの推進を困難なものとしています。

そこで当社は、これらの課題への対応を図るため、地球への配当対象を下記の通り広範に拡大することといたしました。

一つ目は、地球環境に「間接的に」貢献できるような社会的課題解決への寄付です。主に、エコエイド、エコエンジェルというカテゴリーを通して、途上国の教育や衛生問題、貧困問題など、健全で文化的な社会の発展に資する支援を行っていきます。

二つ目は、社会・地球環境に関する課題解決ベンチャーへの投資です。市場からの資本調達に困難な彼らを資金面から支援することで、事業を経済活動に昇華させようという取り組みです。この新たな取り組みのカテゴリーを、「MAEDA SII[※]」と名付けました。

当社は、従来の直接的な寄付に加え、間接的・中長期的な取り組みへの支援を導入した「地球への配当」を通じ、さらなる効果的かつ包括的な地球環境へ貢献を進めていきます。

※SII (Social Impact Investment)

「地球への配当」の拠出カテゴリー

MAEDAの森

森林保全による地球環境貢献

MAEDAエコエイド

国際貢献的な地球環境・社会課題への支援

MAEDAエコシステム

生態系保全、生物多様性への貢献

MAEDAエコエンジェル

その他の環境・社会課題への活動支援他

MAEDAエコスクール

環境教育への支援

MAEDAエコポイント制度 (CSR報告書2015 P51, 52 参照)

前田独自のエコポイント制度への拠出

MAEDAグリーンR&D

地球環境や社会課題解決のための技術開発への支援

MAEDA SII

地球環境や社会課題解決事業に取り組むベンチャーへの
資金的支援

【KPI】環境保全を目的とした資金拠出、グリーンR&Dの採用 (P. 13)

●2014年度「地球への配当」プロジェクトと拠出金額(社会的課題への支援を含む)

カテゴリー	対象プロジェクト名	拠出額(円)	
MAEDAの森	MAEDAの森 佐久	858,316	3,601,228
	MAEDAの森 たかもり	127,674	
	MAEDAの森 ふくい	163,438	
	三重県伊賀市社有林 青山森林	608,000	
	オイスカ 海岸林再生プロジェクトへの寄付	1,843,800	
MAEDA エコシステム	霧多布ナショナルトラスト	541,000	2,549,279
	静岡県護国神社の浮島植生活動	562,576	
	生物多様性アクション大賞	1,000,000	
	竹富島 ツマベニチョウ保護活動	445,703	
MAEDA エコスクール	森づくり絵本の作成	1,450,000	2,884,567
	MAEDA夏の子供キャンプ	859,648	
	MAEDA環境学習会 in 多摩動物公園	346,883	
	海の森プロジェクト	228,036	
MAEDA エコエイド	オイスカ タイ子供の森計画	1,500,000	1,550,000
	日本ユニセフ マダカスカル水と衛生募金	50,000	
MAEDA エコエンジェル	グリーン電力	4,480,000	20,583,717
	NPO・NGO法人への環境活動支援・調査	6,338,615	
	経団連自然保護協議会への寄付	2,030,000	
	eco cup japan 2014	1,851,852	
	環境関連図書点字化支援寄付	1,000,000	
	H26 海の森づくり推進協会活動支援	2,000,000	
	田んぼ生き物調査事業活動支援	1,500,000	
	障がい者の自立支援活動に対する寄付	10,150	
	発展途上国の子供たちの支援活動に対する寄付	100,000	
	先進医療、心と体の健康への貢献に対する寄付金	1,031,900	
	防災・減災・安全に関する研究や活動に関する寄付金	241,200	
MAEDA グリーンR&D	再生可能エネルギー開発技術(7件)	26,250,000	38,688,235
	地球温暖化対策技術(1件)	2,000,000	
	ヒートアイランド対策技術(1件)	2,000,000	
	社会基盤長寿命化高度技術(2件)	1,588,235	
	高度廃棄物処理技術(1件)	6,350,000	
	先進医療技術(1件)	500,000	
MAEDA エコポイント制度	エコポイント運用に関わる諸費用	6,213,391	6,213,391
合 計		76,070,417	

MAEDAの「CSRの4本柱」

「法令等遵守(コンプライアンス)」

重点項目 企業統治、リスク管理、職場環境、法令遵守

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

企業統治

●理念等の浸透・定着:【KPI】経営規範に関する教育の受講

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
新入社員教育の受講者率	100%	100%	100%	100%	◎	100%

コメント

当社の創業理念・社是を含めた「経営規範」を教育し、浸透させていく必要があります。「経営規範」を定着させることを目的とし、新入社員を対象とした受講者率を指標として考えています。

リスク管理

●BCPへの取り組み:【KPI】BCP訓練における安否確認メールへの返信

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
メール返信率	100%	92%	98%	—	—	—

コメント

発生が懸念される東南海地震などを想定し、会社・個人ともに事前対策の徹底を図りました。社員の安否を確認するメールへの返信訓練においては、9割以上の回答となっています。

●情報安全:【KPI】情報安全月間イベント参加者

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
参加者数	307人	607人	926人	900人以上	◎	(計画中)

コメント

情報安全においては、毎年2月を「情報安全月間」として、社員を対象にイベントを開催しています。情報セキュリティに関する標語の募集や、行動チェックなど“自ら考えて積極的に行動すること”などを目的としています。

法令遵守

●CSR・コンプライアンス:【KPI】CSR戦略会議の実施、CSR・コンプライアンスアンケートへの回答、CSR・コンプライアンスレターの発行

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
CSR戦略会議実施回数	9回	9回	11回	—	—	—
アンケート回答率	40.7%	75.2%	—	—	—	—
レター発行回数	3回	1回	2回	2回以上	◎	2回以上

コメント

コンプライアンスに対する理解、意識の向上は企業のリスクマネジメントにおいて重要であることから、社員への浸透・定着を徹底しています。

職場環境

●人権・人事・労務：【KPI】人権問題に関する教育

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
参加率	98%	99%	100%	100%	◎	100%

コメント

人権に関する教育については、新入社員、3年次、5年次の研修で行っています。その参加率を指標に、社員への浸透具合を確認しています。

●人権・人事・労務：【KPI】労務① ダイバーシティー関連

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
障がい者雇用率	1.86%	1.83%	2.20%	2.00%以上	◎	2.00%以上
定年者再雇用率	77.0%	85.0%	82.5%	—	—	—
女性社員数	244人	260人	270人	—	—	—
女性平均勤続年数	12.6年	12.6年	12.8年	—	—	—
女性管理職者数	16人	17人	18人	—	—	—
女性管理職比率	0.58%	0.60%	1.01%	—	—	—

コメント

ダイバーシティーの推進をめざし、定年者や障がい者の雇用促進、女性に優しい職場づくりをめざしてまいります。女性管理職比率は、今年度より“全社員数”に対する割合から、“全管理職者数”に対する割合に見直しました。

●人権・人事・労務：【KPI】労務② ワーク・ライフ・バランス関連

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
育児休業取得者数(女性)	17人	11人	10人	—	—	—
育児休業取得者数(男性)	4人	3人	11人	—	—	—
介護休業取得者数	0人	0人	0人	—	—	—
有給休暇取得率	14.4%	14.1%	21.7%	—	—	—
ボランティア休暇取得者数	156人	130人	182人	—	—	—

コメント

育児休業、介護休業、有給休暇、ボランティア休暇の取得奨励をはじめ、ワーク・ライフ・バランスの支援を充実させるよう取り組んでいます。

●人権・人事・労務：【KPI】人事(雇用・採用)関連

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
全社員数(正社員)	2,756人	2,796人	2,821人	—	—	—
平均年齢	43.2歳	43.6歳	43.8歳	—	—	—
平均勤続年数	18.4年	18.6年	18.7年	—	—	—
新入社員採用人数	69人	82人	94人	—	—	—
建築系	35人	35人	41人	—	—	—
土木系	24人	30人	38人	—	—	—
事務系	10人	17人	15人	—	—	—

「優れた建造物・建設サービスの提供」

重点項目 安全な施工、品質の確保、技術開発、CSR調達

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

安全・品質に関する取り組み

●現場における安全への取り組み:【KPI】安全成績

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
度数率	1.28	1.35	0.97	—	—	—
強度率	0.47	0.65	0.02	—	—	—

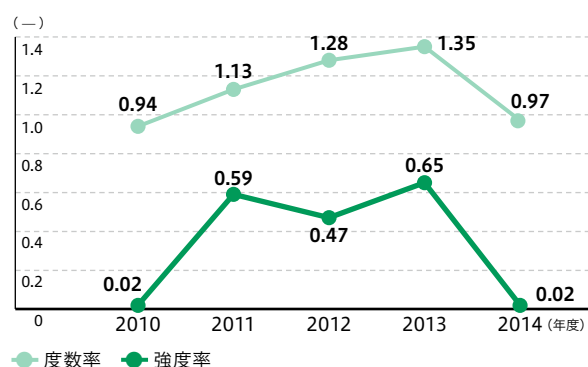
度数率: (死傷者数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000,000 強度率: (労働損失日数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000

コメント

労働災害に関する数値については、度数率、強度率ともに減少となりました。

安全成績や災害件数の減少を図るため、災害事例の効果的な水平展開、作業手順の管理、重機・車両災害の防止、および経験の浅い社員、作業員への教育に重点を置いて取り組み、安全な職場環境の実現に努めています。

度数率と強度率の経年変化



技術開発に関する取り組み

●環境技術の売上への寄与、普及・展開:【KPI】選定環境技術が工事受注・売上に貢献した件数

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
採用件数(土木)	8件	10件	6件	12件	×	14件
採用件数(建築)	17件	15件	11件	20件	×	22件

コメント

2014年度は、土木、建築ともに目標を達成できませんでした。既存技術の実用化に加え、新たな技術開発による受注貢献を増やすことにより、目標達成をめざします。

調達に関する取り組み

●グリーン調達の推進:【KPI】施工段階におけるグリーン調達品(指定11品目)の調達、オフィスにおける文具類グリーン調達品の調達

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
施工段階のグリーン調達率	55%*	52%	48%	55%以上	×	55%以上
オフィスのグリーン調達率	77%	75%	73%	80%以上	△	80%以上

※2011、2012年度は「指定6品目(コンクリート3種、再生鋼材3種)」、2013年度は「指定11品目(コンクリート3種、再生鋼材3種、Low-Eガラス、複層ガラス、ノンフロン断熱材、LED照明、EM電線)」

コメント

施工段階の調達率は、母数である通常品のうち、土木工事における普通コンクリートの調達量が増えたため、調達率が下がり、目標未達となりました。オフィスのグリーン調達率は横ばい状態が続いていますが、目標達成に向けた一層の取り組みを推進します。

●グリーン調達推進:【KPI】施工段階のグリーン調達量(28品目)

KPIの指標		2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
材料 12品目	高炉コンクリート	280,644 m ³	187,997 m ³	187,187 m ³	—	—	—
	フライアッシュコンクリート	36,292 m ³	20,922 m ³	9,632 m ³	—	—	—
	再生コンクリート	501 m ³	4,634 m ³	0 m ³	—	—	—
	電炉H鋼	3,293 t	7,659 t	5,690 t	—	—	—
	電炉鋼矢板	0 t	0 t	0 t	—	—	—
	電炉鉄筋	107,057 t	89,256 t	86,084 t	—	—	—
	建設発生土再利用	86,803 m ³	421,665 m ³	700,254 m ³	—	—	—
	建設汚泥から再生処理土	4,839 m ³	17,636 m ³	38,811 m ³	—	—	—
	再生骨材など	25,033 t	27,368 t	67,227 t	—	—	—
	再生加熱アス混合物	1,982 t	3,915 t	6,387 t	—	—	—
	代替型枠	9,372 m ²	16,520 m ²	46,716 m ²	—	—	—
	PC材	16,685 m ³	21,264 m ³	23,243 m ³	—	—	—
内・外 装材 7品目	Low-Eガラス	27,800 m ²	41,092 m ²	31,630 m ²	—	—	—
	複層ガラス	34,679 m ²	14,763 m ²	28,609 m ²	—	—	—
	屋上緑化	3,306 m ²	2,086 m ²	1,978 m ²	—	—	—
	壁面緑化	569 m ²	1,254 m ²	624 m ²	—	—	—
	再生木質ボード	245,436 m ²	174,876 m ²	76,817 m ²	—	—	—
	間伐材(国産材)	201 m ²	992 m ²	267 m ²	—	—	—
	ノンフロン断熱材	733,929 m ²	473,346 m ²	540,375 m ²	—	—	—
設備系 9品目	自動制御ブラインド	0 力所	0 力所	151 力所	—	—	—
	地中熱利用システム	56 kW	12 kW	0 kW	—	—	—
	太陽光発電	3,075 kW	21,172 kW	12,266 kW	—	—	—
	太陽熱利用	0 m ²	0 m ²	0 m ²	—	—	—
	風力発電	0 kW	0 kW	20,000 kW	—	—	—
	燃料電池	0 kW	0 kW	0 kW	—	—	—
	LED照明	41,523 台	58,627 台	50,145 台	—	—	—
	EM電線	345,296 m	802,315 m	591,550 m	—	—	—
	雨水利用設備	3 力所	4 力所	1 力所	—	—	—

コメント

グリーン調達に関しては、おおむね調達量が増加の傾向にあります。これは、社会の省エネや創エネのニーズによるものだと考えられます。太陽光発電については、FIT制度により、当社が自ら発電事業者となる取り組みを行っており、調達量が増加しています。2015年度はグリーン調達品目を増やし、ZEB等の建造物の製品対策を強化します。

「環境保全への取り組み」

重点項目 環境経営推進、社会的課題解決への寄与

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

環境経営推進に関する取り組み

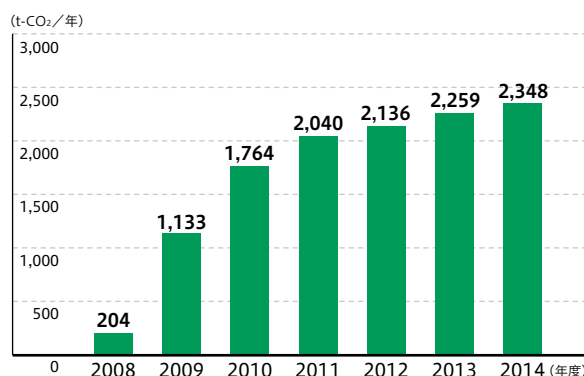
●環境教育の充実:【KPI】環境意識の向上を目的とした集合教育の実施、eco検定の取得

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
集合教育の実施回数	6回	6回	6回	6回/年以上	◎	7回/年以上
eco検定取得者率	78%	80%	83%	79%以上	◎	80%以上

対象としている環境に関する集合教育

対象者	実施内容
①新入社員導入教育	当社規範類、CSR・コンプライアンスの基礎など
②1年次職種別集合教育	CSR・環境経営の基礎
③1年次環境教育	廃棄物処理の基礎、現地視察など
④3年次職種別集合教育	CSR・環境経営、コンプライアンスなど
⑤4年次集合教育	EMS規程類の教育、運用方法など
⑥5年次職種別集合教育	CSR・環境経営の詳細、事例説明など

Eco検定合格者の推移(累計)



コメント

「環境経営No.1」を掲げている当社は、若手社員を対象として、CSR・コンプライアンスやMAEDAの環境経営など、環境に対する理解度向上に努めています。環境教育の機会を充実させ、浸透・定着できるように、毎年教育プログラムを見直しています。2015年度からは、3年次の環境教育を追加し、環境法令等の知識強化を図ります。また環境に対する基礎知識の拡充を目的として、eco検定の取得推進をしており、約83%(2,348人、2015年3月現在)の社員が有資格者となっています。

●環境に関するしくみの充実:【KPI】環境保全を目的とした資金拠出、グリーンR&Dの採用

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
「地球への配当」拠出額	40,000(千円)	48,000(千円)	76,000(千円)	—	—	—
グリーンR&D採用件数	—	5件	4件	新規3件以上	◎	新規3件以上

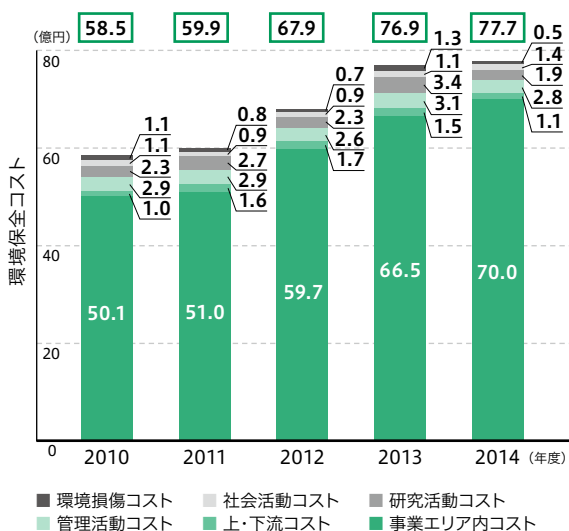
コメント

当社では、連結純利益の2%を「地球への配当」として拠出し、地球環境保全活動を推進しています。単に資金を拠出するだけでなく、長期的な視点に立って支援できるプロジェクト、また社員やその家族が参加できる活動などの条件を満足していることを確認した上で、NPOなどに対して支援し、協働しながら環境活動を行っています。2013年度からは、「MAEDAグリーンR&D」として、未来の地球環境保全につながる可能性のある研究開発や事業についても資金を拠出しており、2014年度は4件の研究テーマを新たに採用しました。

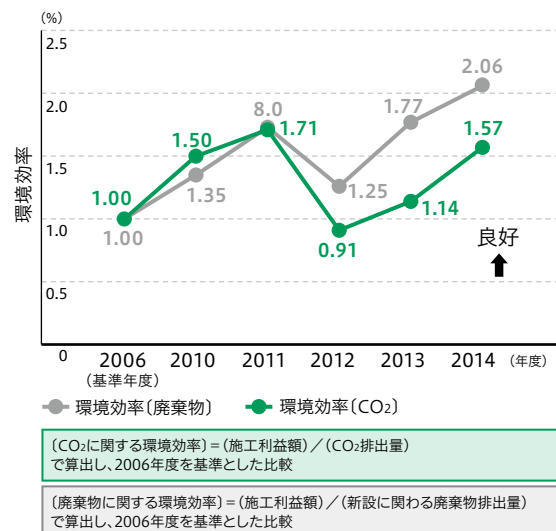
●環境保全コストの集計：【KPI】環境保全コスト

環境保全コスト区分		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		
大区分	中区分	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	大気汚染防止	3.1	(5.3)	2.9	(4.8)	3.9	(5.7)	7.0	(9.1)	3.6	(4.6)
		水質汚濁防止	6.8	(11.6)	6.1	(10.2)	4.4	(6.5)	8.8	(11.4)	6.8	(8.8)
		土壌、地下水汚染防止	0.5	(0.9)	0.3	(0.5)	5.3	(7.8)	0.1	(0.1)	1.5	(1.9)
		騒音、振動防止	2.5	(4.3)	2.6	(4.3)	3.2	(4.7)	5.8	(7.6)	7.0	(9.0)
		地盤沈下防止	0.0	0.0	0.8	(1.3)	0.1	(0.1)	0.2	(0.3)	0.0	0.0
		その他公害防止	0.4	(0.7)	0.2	(0.4)	0.2	(0.3)	0.7	(0.9)	0.2	(0.3)
		小計	13.4	(22.9)	12.9	(21.5)	17.1	(25.2)	22.6	(29.4)	19.1	(24.5)
	地球環境保全コスト	温暖化防止・省エネルギー	0.2	(0.4)	0.4	(0.7)	0.2	(0.3)	2.4	(3.1)	0.4	(0.5)
		オゾン層破壊防止、その他	0.4	(0.7)	2.1	(3.5)	0.8	(1.2)	0.0	0.0	4.1	(5.3)
		小計	0.6	(1.1)	2.5	(4.2)	1.0	(1.5)	2.4	(3.1)	4.5	(5.8)
	資源循環コスト	建設副産物減量化、リサイクル	4.8	(8.2)	3.4	(5.7)	5.6	(8.2)	2.7	(3.5)	8.6	(11.1)
		節水、雨水利用等コスト	0.1	(0.2)	0.2	(0.3)	0.1	(0.1)	0.1	(0.1)	0.4	(0.5)
		廃棄物処理費	31.2	(53.4)	32.0	(53.4)	35.9	(52.9)	38.7	(50.4)	37.5	(48.1)
小計	36.1	(61.8)	35.6	(59.4)	41.6	(61.3)	41.5	(54.0)	46.5	(59.7)		
事業エリア内コスト計		50.1	(85.7)	51.0	(85.1)	59.7	(87.9)	66.5	(86.5)	70.0	(90.1)	
上・下流コスト	グリーン購入のためのコスト	0.3	(0.5)	0.6	(1.0)	0.6	(0.9)	0.5	(0.7)	0.2	(0.3)	
	環境配慮設計コスト	0.7	(1.2)	1.0	(1.7)	1.1	(1.6)	1.0	(1.3)	0.9	(1.1)	
	小計	1.0	(1.7)	1.6	(2.7)	1.7	(2.5)	1.6	(2.0)	1.1	(1.4)	
管理活動コスト	環境教育費用	0.4	(0.7)	0.4	(0.7)	0.3	(0.4)	0.4	(0.5)	0.5	(0.6)	
	EMS運用コスト	0.9	(1.6)	0.9	(1.5)	0.9	(1.3)	0.9	(1.1)	1.0	(1.2)	
	環境負荷の監視・測定	0.8	(1.3)	0.8	(1.3)	0.6	(0.9)	1.0	(1.2)	0.7	(0.9)	
	環境関連部門コスト	0.8	(1.3)	0.8	(1.3)	0.8	(1.2)	0.9	(1.2)	0.7	(0.9)	
	小計	2.9	(4.9)	2.9	(4.8)	2.6	(3.8)	3.1	(4.0)	2.8	(3.6)	
研究活動コスト	小計	2.3	(3.9)	2.7	(4.6)	2.3	(3.4)	3.4	(4.4)	1.9	(2.5)	
社会活動コスト	現場周辺美化対策コスト	0.0	0.0	0.1	(0.2)	0.1	(0.1)	0.1	(0.1)	0.0	0.0	
	地域支援・環境関連基金・寄付等	0.6	(1.0)	0.3	(0.5)	0.4	(0.6)	0.7	(0.9)	1.0	(1.2)	
	情報公開・環境広告コスト	0.5	(0.9)	0.5	(0.8)	0.4	(0.6)	0.3	(0.4)	0.4	(0.6)	
	小計	1.1	(1.8)	0.9	(1.5)	0.9	(1.3)	1.1	(1.4)	1.4	(1.8)	
環境損傷コスト	土壌汚染、自然破壊等の修復コスト	1.1	(1.9)	0.8	(1.3)	0.6	(0.9)	1.3	(1.6)	0.5	(0.6)	
	環境の損傷に対応する引当金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	(0.1)	0.0	0.0	0.0	0.0	
	環境保全に関わる和解金、補償金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	小計	1.1	(1.9)	0.8	(1.3)	0.7	(1.0)	1.3	(1.6)	0.5	(0.6)	
環境保全コスト	合計	58.5	(100.0)	59.9	(100.0)	67.9	(100.0)	76.9	(100.0)	77.7	(100.0)	

環境保全コスト



環境効率



地球温暖化防止に関する取り組み

●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】設計段階:建築物運用段階におけるCO₂排出削減

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
CO ₂ 推定削減率	38%	28%	31%	25%以上	◎	25%以上
CO ₂ 推定削減量	776t-CO ₂	672t-CO ₂	2,884t-CO ₂	—	—	—

コメント

建築物運用段階におけるCO₂推定排出量の削減率は、例年25%以上の削減を目標とし、継続して達成しています。2014年度は、CO₂推定削減量において、大規模案件の影響を受け、2013年度に比べ大幅に増加しました。

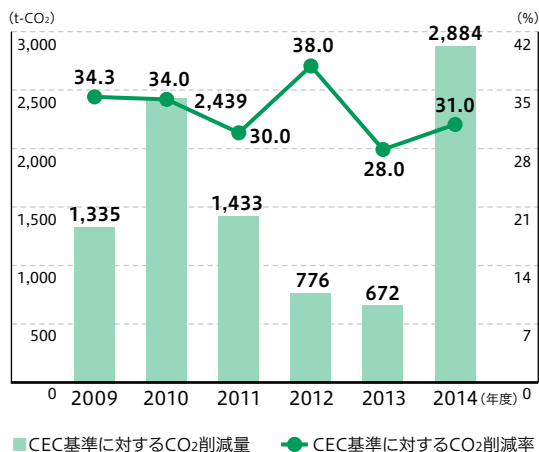
●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階におけるCO₂排出

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
CO ₂ 排出原単位(全社)	30.0 t-CO ₂ /億円	31.0 t-CO ₂ /億円	26.7 t-CO ₂ /億円	29.9 t-CO ₂ /億円以下	◎	32.3 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出原単位(土木)	65.5 t-CO ₂ /億円	65.4 t-CO ₂ /億円	53.5 t-CO ₂ /億円	60.1 t-CO ₂ /億円以下	◎	72.3 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出原単位(建築)	11.8 t-CO ₂ /億円	10.9 t-CO ₂ /億円	11.1 t-CO ₂ /億円	11.7 t-CO ₂ /億円以下	◎	11.7 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出量	80 千t-CO ₂	92 千t-CO ₂	86 千t-CO ₂	—	—	—

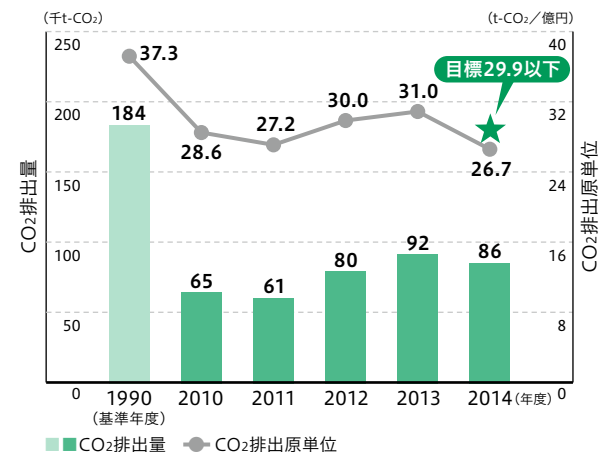
コメント

2014年度の施工段階におけるCO₂排出量は、86千t-CO₂(1990年度比53.3%削減)となり減少しました。またCO₂排出原単位も、土木工事における排出量の減少により、26.7t-CO₂/億円(1990年度比28.3%削減)と大幅に減少しました。作業所における省燃費運転教育やアイドリングストップの実施などの取り組みにより2,675tのCO₂削減に寄与しました。

建築物運用段階におけるCO₂発生抑制に関する推移



CO₂(施工活動)の推移



2014年度の作業所における省燃費運転活動実施状況

対象台数	アイドリングストップ	定期検査証保有	省燃費運転講習(座学)	省燃費運転講習(実地)
土木: 148,468台	67.5%(594t-CO ₂)	71.6%(700t-CO ₂)	33.1%(216t-CO ₂)	21.5%(351t-CO ₂)
建築: 85,957台	85.2%(265t-CO ₂)	73.2%(253t-CO ₂)	47.7%(110t-CO ₂)	32.6%(188t-CO ₂)
全社: 234,425台	74.0%(859t-CO ₂)	72.2%(953t-CO ₂)	38.5%(326t-CO ₂)	25.6%(539t-CO ₂)

※()内はCO₂推定削減量

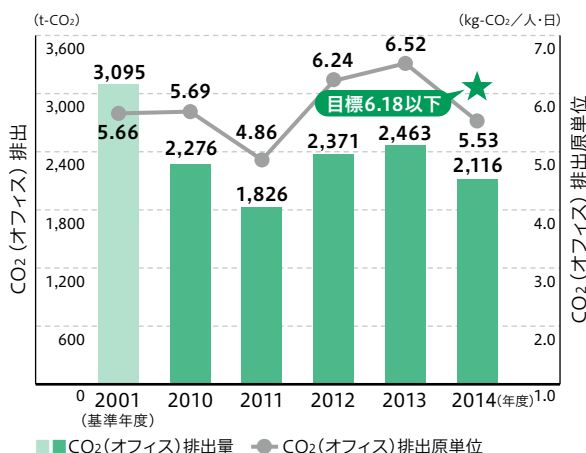
●地球温暖化防止に向けた取り組み：【KPI】オフィス活動：オフィスにおける電力使用によるCO₂排出

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
CO ₂ 排出原単位	6.24 kg-CO ₂ /人・日	6.52 kg-CO ₂ /人・日	5.53 kg-CO ₂ /人・日	6.18 kg-CO ₂ /人・日以下	◎	5.53 kg-CO ₂ /人・日以下
CO ₂ 排出量	2,371 t-CO ₂	2,463 t-CO ₂	2,116 t-CO ₂	2,383 t-CO ₂ 以下	◎	2,116 t-CO ₂ 以下

コメント

オフィスでは2014年度、CO₂排出量、排出原単位ともに減少となり、目標を達成しました。電力のCO₂排出量換算係数(使用電力量1kWhあたりのCO₂排出量)の増加に伴い、2012年度、2013年度と増加傾向を示していましたが、電力量においては2012年度5,137kwh、2013年度4,764kwh、2014年度4,093kwhと継続的に減少しており、省エネ活動の取り組み効果が現れています(2014年度において2001年度比51.1%削減)。引き続きオフィスにおけるCO₂排出量の削減活動を推進します。

CO₂(オフィス活動)の推移



●地球温暖化防止に向けた取り組み：【KPI】事業活動の上下流において排出される間接的な排出量(スコープ3)

カテゴリー	算定範囲	2012年度実績値 (t-CO ₂)	2013年度実績値 (t-CO ₂)	2014年度実績値 (t-CO ₂)
1. 購入した製品・サービス	当社が購入した製品のうち、購入金額を把握できている製品の排出量	629,380	696,901	743,099
2. 資本財	購入または取得した資本財(有形固定資産、土地を除く)の建設・製造および輸送から発生する排出量	12,510	6,655	34,046
3. スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	自社が購入した燃料の上流側の排出量	3,924	5,965	5,192
4. 輸送、配送(上流)	当社が購入した建造物の躯体関係(生コン、鉄筋など)の物流に関する排出量	3,086	3,021	5,086
5. 事業から出る廃棄物	自社の事業活動から発生する廃棄物(有償の物を除く)の自社以外での「廃棄」と「処理」に係る排出量および廃棄物の輸送に係る排出量	33,495	29,736	32,589
6. 出張	業務における従業員の移動(出張など)に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量	300	305	307
7. 雇用者の通勤	事業所への通勤時に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量	1,039	1,338	1,350
11. 販売した製品の使用	自社施工した建造物の使用に伴う排出量のうち、「事務所ビル」「卸・小売業」「飲食店」「学校」「ホテル・旅館」「病院」「集合住宅など」の建築物に係る排出量 ※建物の供用期間(60年と設定)における排出量としたことから、(年間排出量)×(供用期間)で算定	11,378,000	10,473,589	12,043,223
12. 販売した製品の廃棄	自社施工した建造物の「廃棄」と「処理」に係る排出量 ※具体的には、自社購入した製品のうち、「コンクリート」「鉄筋」「鉄骨」「PC」から、それぞれの廃棄物量を差し引いた物量を計算し、これを「販売した製品」と仮定して将来「廃棄」「処理」される量と想定	227,108	197,472	51,982
13. リース資産(下流)	当社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産のうち、建物の運用に伴う排出量	5,919	6,048	6,692
合計	—	12,314,494	11,438,371	12,923,566

※カテゴリー8「リース資産(上流)」、9「輸送、配送(下流)」、10「販売した製品の加工」、14「フランチャイズ」、15「投資」は対象外といたしました。

※環境省が開催した、環境情報開示システム試行事業に参加し、スコープ3算定支援を受け、算定しました。

循環型社会構築に関する取り組み

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階における廃棄物の排出量

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
廃棄物排出量(全社)	512千t	657千t	566千t	—	—	—
廃棄物排出量(解体・新設)	313千t	318千t	352千t	—	—	—
廃棄物排出量(解体のみ)	199千t	339千t	214千t	—	—	—
廃棄物最終処分量	45千t	31千t	19千t	—	—	—

コメント

【廃棄物排出量】当社が排出した全廃棄物排出量は、566千t(新築:352千t、解体:214千t)となりました。2013年度に比べ解体工事が減少したことから、解体工事における廃棄物が減少し、廃棄物総排出量は前年度比13.9%減となりました。新設工事に伴う廃棄物排出量は昨年度に比べ微増となりました。

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階のリサイクル(汚泥等除く※)

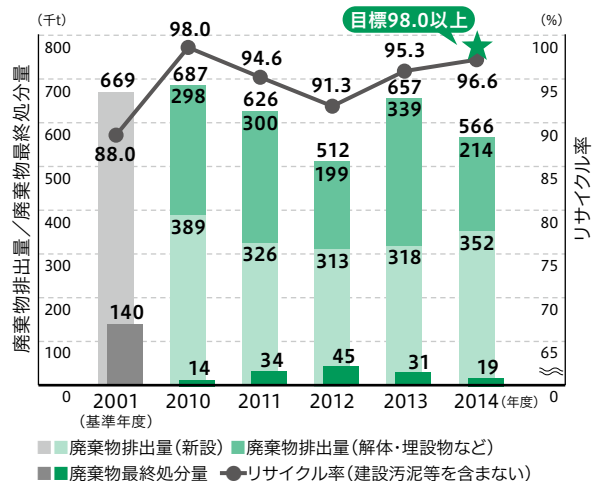
KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
リサイクル率(汚泥等除く) (全社)	97.0%	97.7%	97.0%	98.0%以上	○	98.0%以上
リサイクル率(汚泥等除く) (土木)	98.3%	98.2%	98.3%	99.0%以上	○	99.0%以上
リサイクル率(汚泥等除く) (建築)	96.3%	97.4%	96.2%	98.0%以上	○	96.7%以上

※対象年度に排出した廃棄物のうち、「建設汚泥」、「石綿含有廃棄物」、「特別管理型廃棄物」を対象外としている。
【リサイクル率(%)】:(排出量-最終処分量)/排出量×100

コメント

「リサイクル率(汚泥等除く)」の目標値は、中期環境計画実施期間である2015年度まで一定としています。2014年度は目標未達でしたが、建築・土木ともに90%後半で推移しており、ある程度の段階まで、取り組みが進んでいますが、支店によっては四半期ごとにばらつきがあり、まだ取り組みを進める余地があると考えられます。2015年度までに「リサイクル率98%以上」という目標を達成できるよう、廃棄物最終処分量の削減に努めます。

廃棄物(施工活動)推移およびリサイクル率



●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:建築新築工事における混合廃棄物排出量

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
住宅系混廃原単位(延床面積あたり)	11.5kg/m ²	9.5kg/m ²	10.1kg/m ²	—	—	9.6kg/m ² 以下
非住宅系混廃原単位(延床面積あたり)	6.0kg/m ²	8.2kg/m ²	5.9kg/m ²	—	—	5.6kg/m ² 以下

コメント

過去の実績を参考に、2015年度から目標値を設定しています。対象年度の完成工事を集計対象としているため、その年度の件数や規模に左右される可能性はありますが、混合廃棄物排出量減少をめざし、取り組んでいきます。

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:電子マニフェストの利用

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
電子マニフェスト利用率	76%	75%	80%	78%以上	◎	80%以上

コメント

当社では、廃棄物の適正管理推進を目的に、電子マニフェストの普及を推進しています。地域により利用率が大きく異なるものの、2014年度時点において、中期目標である「80%以上」を達成することができました。今後は電子マニフェスト利用率が低い地域における利用率向上を図り、一層の廃棄物の適正管理に努めます。

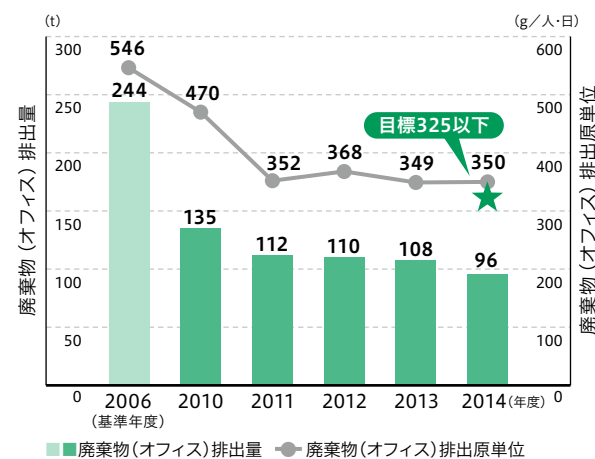
●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスにおける一般廃棄物排出量削減

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
廃棄物排出原単位(1日一人あたり)	368g/人・日	349g/人・日	350g/人・日	325g/人・日以下	△	325g/人・日以下
廃棄物排出量	110t	108t	96t	97t以下	◎	97t以下

コメント

オフィスの廃棄物目標は、排出量、排出原単位ともに、中期環境計画実施期間である2015年度まで一定としています。2014年度は排出原単位が目標未達となりました。引き続き削減に努めてまいります。

廃棄物(オフィス活動)推移



●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスの水使用量

KPIの指標	2012年度実績値	2013年度実績値	2014年度実績値	2014年度目標値	2014年度達成度	2015年度目標値
水使用原単位	109L/人・日	74L/人・日	63L/人・日	70L/人・日以下	◎	60L/人・日以下

コメント

2014年度のオフィスの水使用量の削減については、目標を達成できました。2015年度以降も、実績推移を確認しながら目標を達成できるように削減活動を充実させていきます。

生物多様性保全に関する取り組み

●生物多様性の取り組み:【KPI】施工段階における取り組み

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
環境取り組み件数	3件	25件	44件	15件以上	◎	44件以上

コメント

2013年4月に「MAEDA生物多様性ガイドライン」を策定し、全支店において生物多様性の教育を実施しました。現場での取り組み事例はデータベースに登録され、社員の生物多様性に関する知識・意識の向上を目的に全社へ水平展開されています。また、2014年には「環境版MAEDAルール」という現場における社内規定において、生物多様性の指標を追加しています。

●生物多様性の取り組み:【KPI】生物多様性をテーマにした技術の開発

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
開発テーマ研究の件数	2件	5件	6件	5件以上	◎	5件以上

コメント

生物多様性への取り組みは、現場での取り組みを充実させるとともに、現場や設計に活かせる技術開発にも注力しています。これは、「MAEDA生物多様性ガイドライン」に示されている「MAEDA 6つの大目標」の一つに掲げられています。今後も引き続き、生物多様性保全のための研究・技術開発を積極的に推進し、これらの技術を顧客や社会に提案していきます。

グループ会社の環境データ一覧

KPIの指標			2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値
(株)ジェイシティ	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	5,410	5,350	2,002
	廃棄物排出量	t	69	73	117
	水使用量	m ³	39,366	44,432	40,977
フジミ工研(株)	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	779	1,043	1,934
	廃棄物排出量	t	1,985	1,792	1,871
	水使用量	m ³	20,542	21,332	25,078
(株)JM	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	45	39	248
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m ³	—	—	—
(株)ミヤマ工業	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	33	34	33
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m ³	231	292	155
(株)エフビーエス	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	48	58	55
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m ³	604	648	639
光が丘興産(株)	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	526	526	463
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m ³	9,547	11,569	11,766
(株)ウィーゴカントリー倶楽部	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	334	315	350
	廃棄物排出量	t	9	10	23
	水使用量	m ³	18,997	18,175	11,730
正友地所(株)	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	15	10	9
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m ³	97	31	—
総計	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	7,191	7,375	5,094
	廃棄物排出量	t	2,063	1,875	2,011
	水使用量	m ³	89,384	90,479	90,345

※環境データについて、集計が困難な場合などは、実績値を—としている。

コメント

MAEDAグループは、建設関連の事業をはじめ、多様な事業を行う企業により構成されています。また事業エリアにおいても全国展開している企業や、地域に根差して活動している企業もあります。データブックに掲載している環境データは、CO₂排出量、廃棄物排出量、水使用量の3項目に絞っています。多種多様な事業形態のため、データが取得不可能なケースや限定されるケースがありますが、各社が取得できる範囲で集計しています。今後、削減に向けた活動を充実させ、グループ全体の環境負荷低減に努めていきます。

「企業市民としての社会・地域貢献活動」

重点項目 社会・地域とのコミュニケーション、社員の環境意識向上

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

社会・地域とのコミュニケーション

●地域とのコミュニケーション:【KPI】社会・地域貢献の取り組み

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
取り組み件数	590件	512件	749件	—	—	—

コメント

各支店や営業所、現場における社会貢献活動の推進を目的として、取り組みをデータベースに登録しています。また支店からの推薦とその取り組み内容から、年2回、表彰を行っています。

●震災ボランティアの実施:【KPI】震災ボランティアの実施

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
実施回数	10回	8回	9回	8回以上	◎	8回以上

コメント

震災ボランティアについては、2011年6月から継続して実施しています。その間、支援先のニーズが変化し、ボランティアの内容も少しずつ変化しています。これからも被災地の方々のニーズに合った、充実した活動が継続できるよう心掛けていきます。

MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用

●エコアクションの拡大:【KPI】社内エコポイント制度「Me-pon」の普及

KPIの指標	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2014年度 実績値	2014年度 目標値	2014年度 達成度	2015年度 目標値
運用者率	17%	20%	28.8%	21%以上	◎	25%以上
利用ポイント数	358,005 P/年	580,675 P/年	582,421 P/年	450,000 P/年以上	◎	500,000 P/年以上
累計の取得ポイント数	2,056,352 P	2,883,497 P	3,499,882 P	—	—	—
累計の交換ポイント数	615,250 P	1,195,925 P	1,690,915 P	—	—	—
社員参加人数	2,691人	2,664人	2,751人	—	—	—
家族参加人数	586人	727人	908人	—	—	—

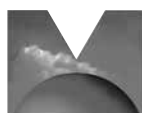
コメント

2010年度から運用している当社独自のMAEDAエコポイント制度「Me-pon」は、個人の活動を推進するとともに、環境に対する意識向上を目的としています。2013年度から具体的な目標を掲げて企画・運営するために、実運用者数の増加とポイントの利用促進を管理項目として、「Me-pon」の普及に努めています。これからもさらなる普及促進と魅力ある企画づくりを継続して実施していきます。

外部表彰・外部評価

2014年度の外部表彰、外部評価の結果を掲載します。

	表彰・アンケート名	主催	表彰・評価結果
評価案件	環境経営度調査	日経新聞	建設業3位
	CSR企業ランキング	東洋経済	179位(総合建設業10位)
	ぶなの森環境アンケート	NKSJ	Aランク(業界トップ25%内)
	モーニングスター社会的責任投資 株価指数	モーニングスター(株)	建設会社から選定された4社のうち、1社(2015年3月現在)
現場表彰	3R推進功労者等表彰	3R推進協議会	会長賞:飯田橋再開発作業所(作)、山口第1トンネル(作)
	2015年度優良現場表彰	日建連	公害防止・建設副産物管理優良事業場:九州中央病院(作)



M A E D A

シンボルマーク天空の地平線の意味

環境との調和

前田建設の頭文字である「M」の中に青空に浮かぶ緑の地球。
美しい地球の環境を敏感にとらえ、美しい人間生活に貢献しようとする姿勢を表現しています。

信頼のテクノロジー

カラーで精緻なグラフィック表現は、先進的なハイテクノロジーを象徴するとともに、
安定性を持ちながらも天空に向かっていこうとする、大志を抱くイメージを持っています。

美的価値の尊重

従来のマークの域を超えた、リアルなグラフィック表現の採用には、建造物は勿論、
その施工のプロセスでも美しくありたいとする願いが込められています。

本報告書について

印刷物製造作成にあたり合計で4,910k g-CO₂を排出しています(1冊あたり約491g)。本印刷は、『Printing Goes Green』によりCO₂排出量を算出しています。そこで、編集や製造工程で使用する電力15,000kWhに風力発電でつくられたグリーン電力を使用しています。

本印刷は、視認性、判読性に優れた書体であるユニバーサルデザインフォントを採用しています。

本報告書の制作にあたり、環境への配慮を行っています

80%再生紙	リサイクル対応印刷物	グリーン電力の使用	グリーンプリンティング	ライスインキ



お問い合わせ先

前田建設工業株式会社
CSR・環境部

TEL: 03-5276-5134(ダイヤルイン)

URL: <http://www.maeda.co.jp>

